

地図（国道、県道表示）

【別紙1】



拡大図



出典：埼玉県地理環境情報 WebGIS 引用年月日（令和4年9月29日）
引用理由：県道情報を明示する必要があるため

治水地形分類図と活断層図

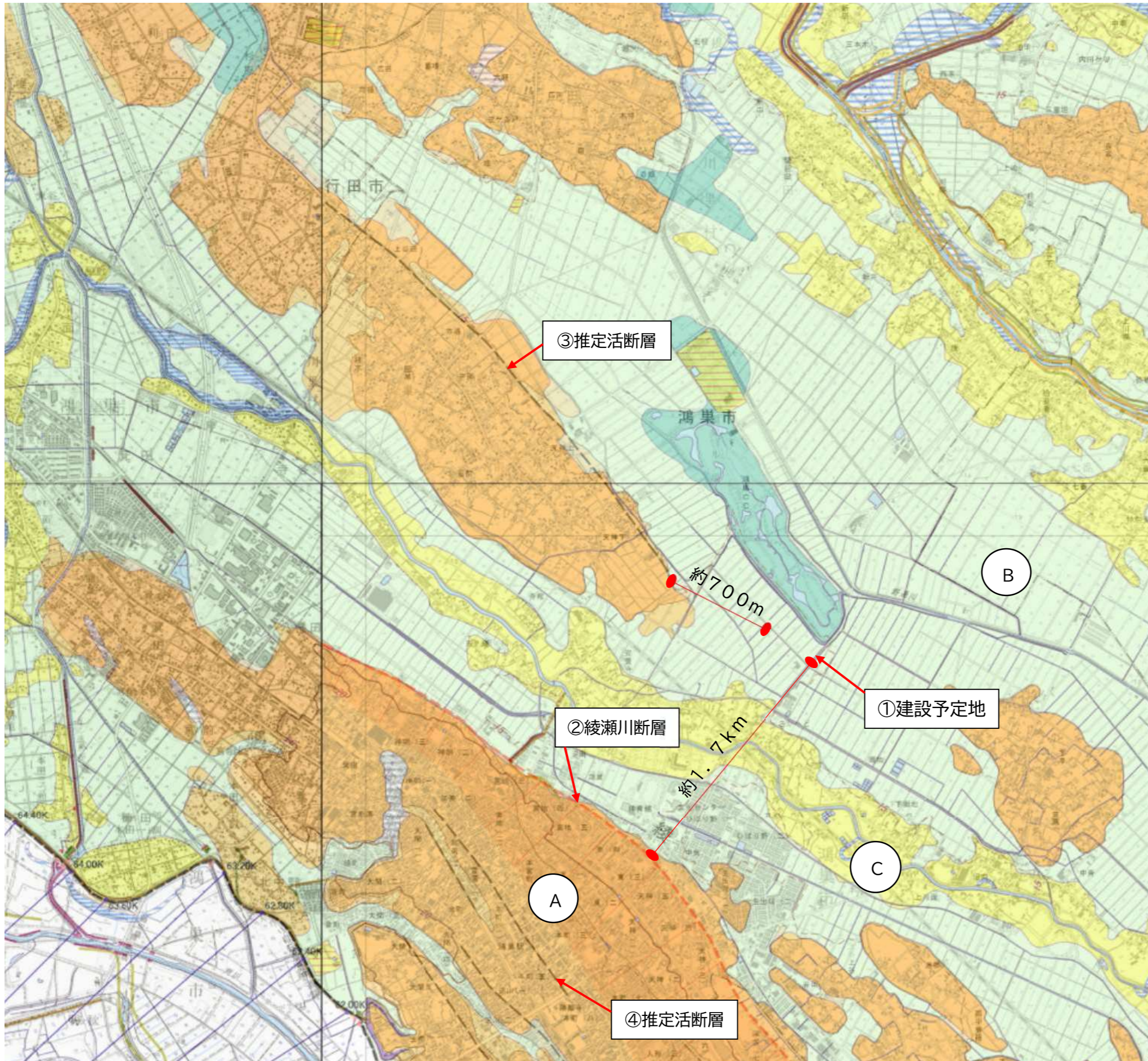
【別紙2】

治水地形分類図凡例（抜粋）

凡例				
大分類	中分類	小分類	細分類	記号
山地				
台地・段丘		段丘面		
		崖(段丘崖)		
		浅い谷		
低地	山麓堆積地形			
		扇状地		
		氾濫平野		
		氾濫平野	後背湿地	
		扇状地, 氾濫平野	微高地(自然堤防)	
			旧河道	旧河道(明瞭) 旧河道(不明瞭)
			落堀	
	砂州・砂丘			

活断層図凡例（抜粋）

名称	記号	定義
活断層(位置やや不明確)		活断層のうち、活動の痕跡が侵食や人工的な要因等によって変更されているために、その位置が明確には特定できないもの。
活断層(活撓曲)		活断層のうち、変位が軟らかい地層内で拡散し、地表には段差ではなくたわみとして現れたもの。たわみの範囲及び傾斜方向を示す。
推定活断層(地表)		地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、現時点では明確に特定できないもの。
推定活断層(地表)(位置やや不明確)		推定活断層のうち、位置が不明確なもの。

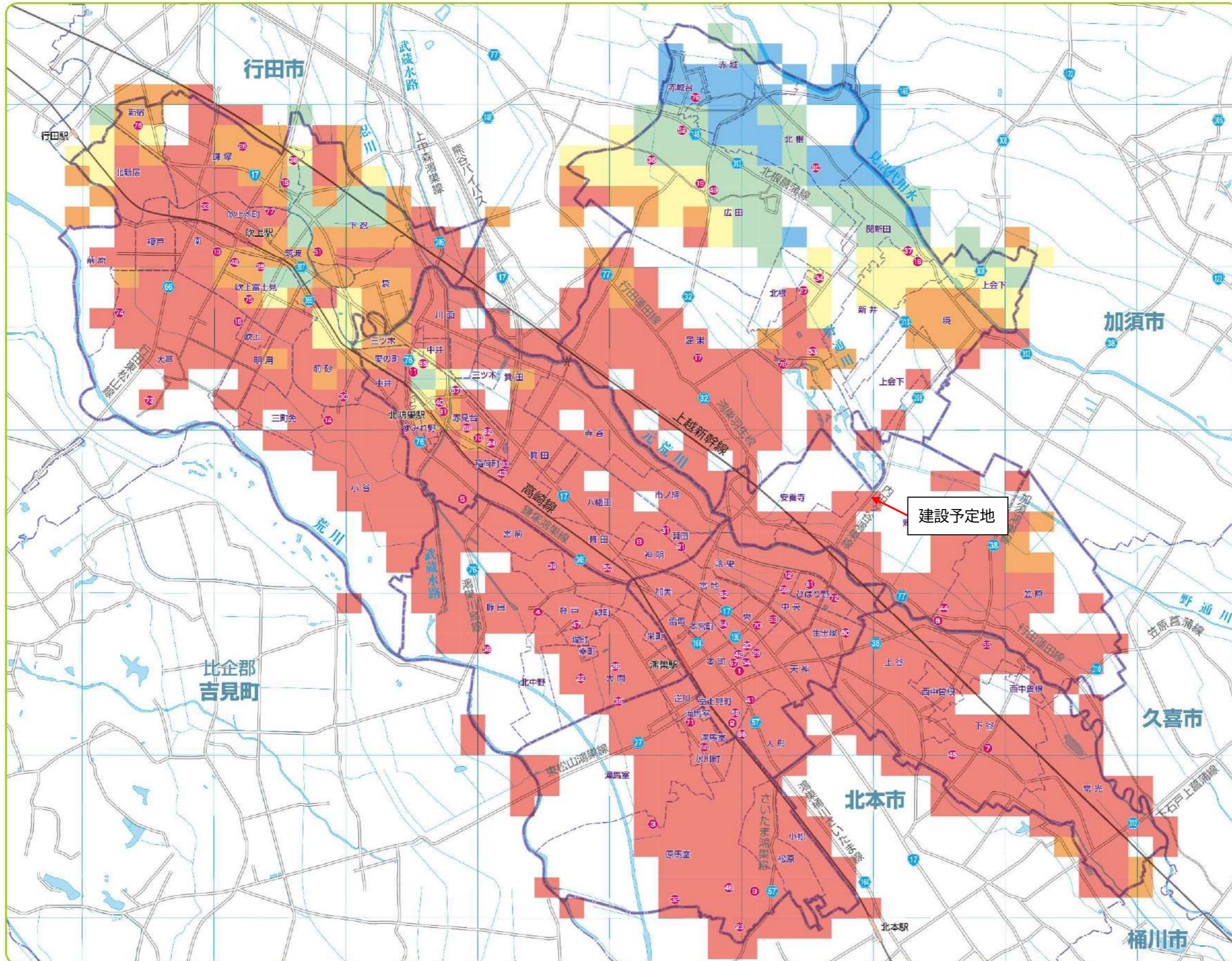


※この図は建設予定地周辺の治水地形分類図及び活断層図（都市圏活断層図）を重ね合わせたものに中部環境保全組合で説明用の加工を加えた資料となります。

出典：国土地理院 地理院地図 Web

1/25000 都市圏活断層図 綾瀬川断層とその周辺「鴻巣」熊原康博（H28.11）

地震ハザードマップ — 地域危険度マップ



地域危険度マップ

地域危険度マップとは、地震による揺れによって発生する建物被害の分布を、約250m単位で分割したメッシュ（網目）ごとに示したものです。具体的には、「揺れやすさマップ」(P28)で示している、平成24・25年度に埼玉県が実施した地震被害想定調査の5地震の結果のうち、最も揺れの程度（震度）が大きいと想定されたものを採用し、メッシュごとに全壊する建物の割合を算出。それを危険度として示しています。地震による被害を最悪の場合で想定しており、危険度の数値が大きくなるほど地域の建物が受ける被害が大きくなります。

想定している地震

- ①東京湾北部地震 (M7.3)
- ②茨城県南部地震 (M7.3)
- ③元禄型関東地震 (M8.2)
- ④関東平野北西縁断層帯地震 (M8.1)
- ⑤立川断層帯地震 (M7.4)

危険度

危険度数	全壊する建物の割合
危険度5	5%以上
危険度4	3%以上～5%未満
危険度3	2%以上～3%未満
危険度2	1%以上～2%未満
危険度1	0%超～1%未満
建物がいないか、最大震度が5.4以下で建物全壊の危険が0%と想定される場所です。	

出典：鴻巣市ハザードマップ

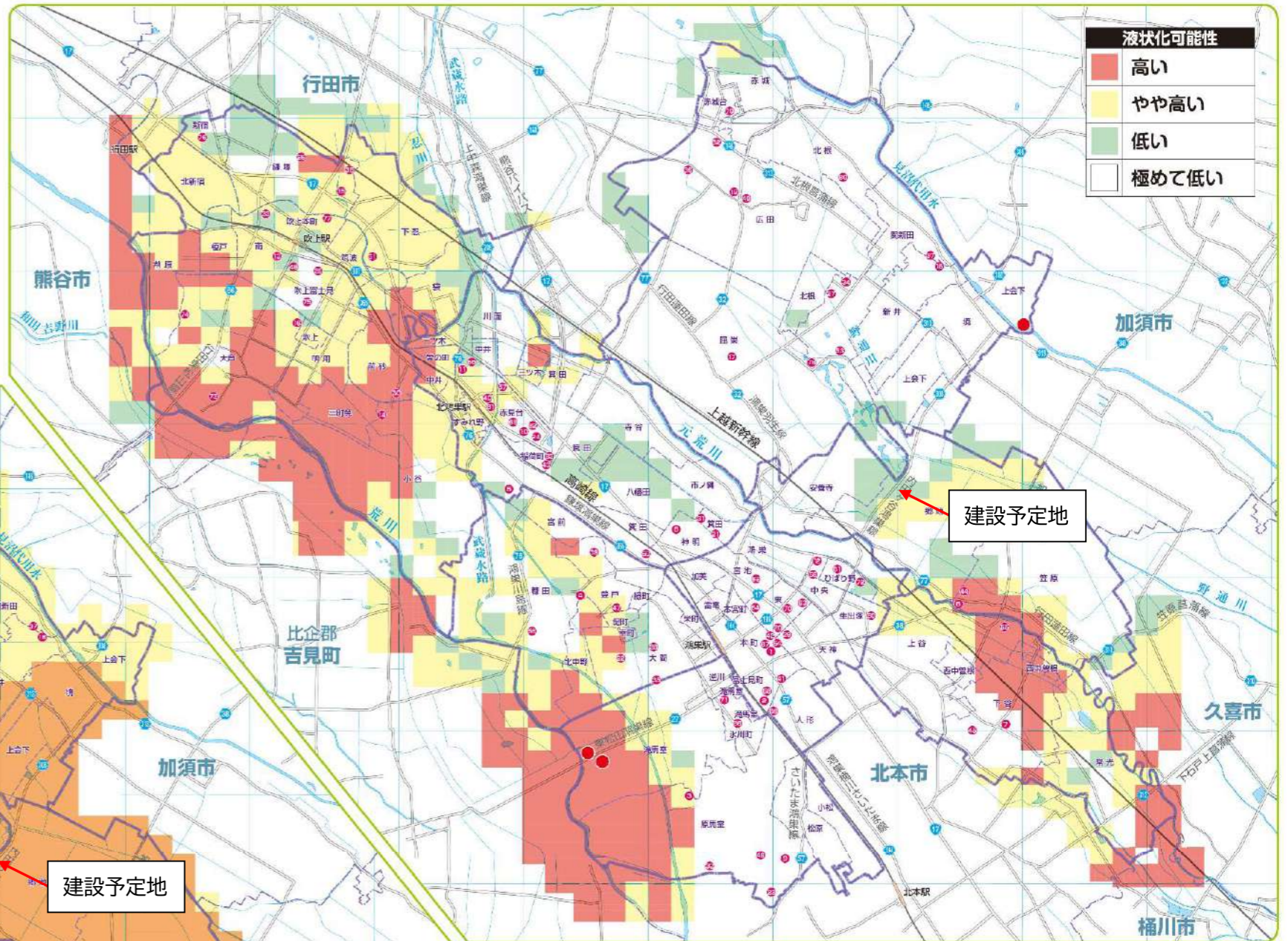
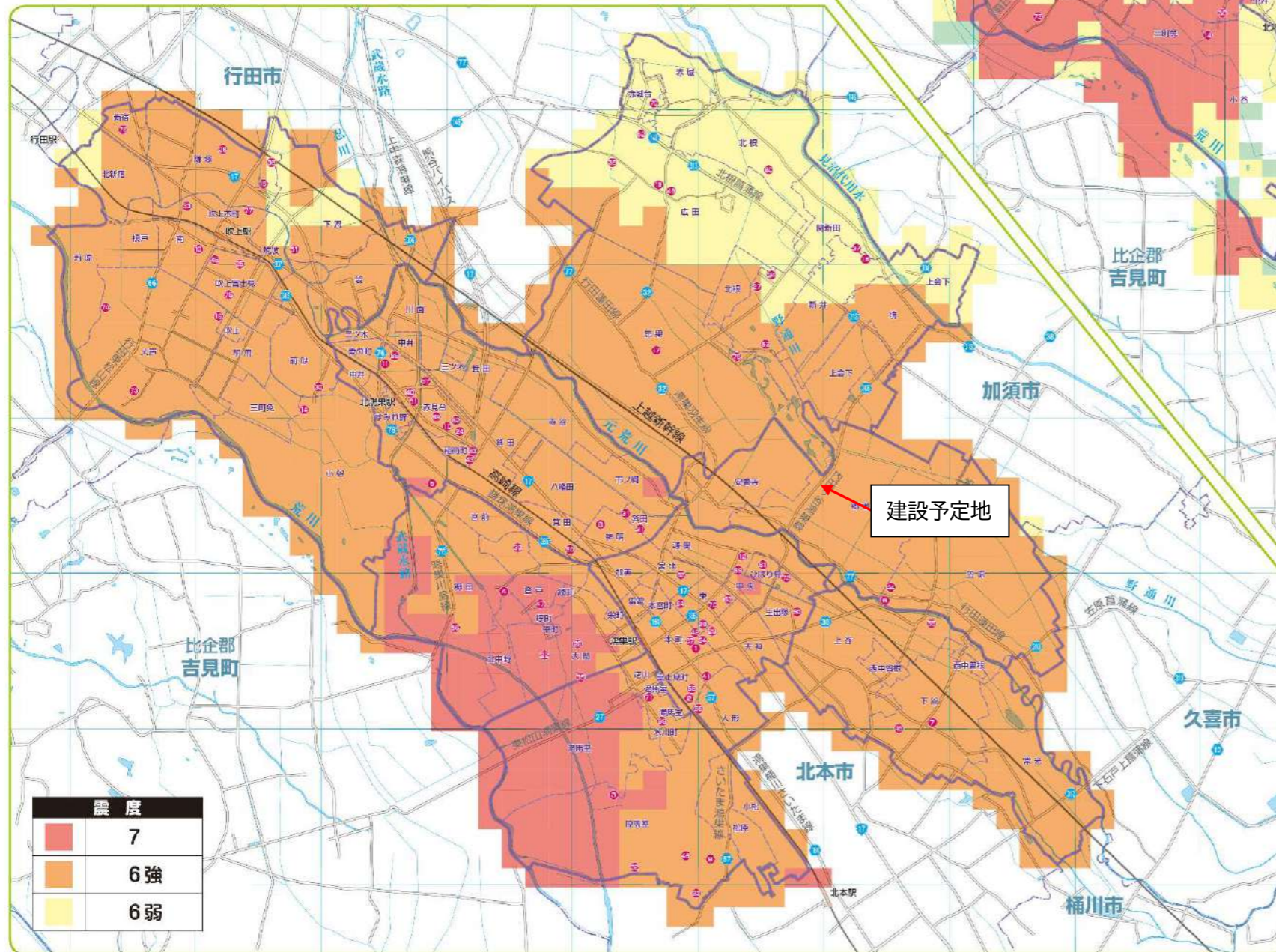
地震ハザードマップ — 揺れやすさ・液状化マップ

■ 揺れやすさマップ

揺れやすさマップとは、平成24・25年度の埼玉県地震被害想定調査で想定された5地震の結果のうち、最も揺れの程度（震度）が大きいと予測されたものを約250m単位で分割したメッシュ（網目）で示したものです。

● 想定している地震

- ① 東京湾北部地震（M7.3）
- ② 茨城県南部地震（M7.3）
- ③ 元禄型関東地震（M8.2）
- ④ 関東平野北西縁断層帯地震（M8.1）
- ⑤ 立川断層帯地震（M7.4）



■ 液状化マップ

液状化マップとは揺れやすさマップと同様、埼玉県の地震被害想定調査で想定された5地震について液状化の危険性を示したものです。液状化が起きますと、陥没や地割れ等による地面の変化が原因で建物が傾いたり、道路通行が困難になる被害が予想されます。

※ ● は東日本大震災の時に、液状化の被害が発生した場所です。

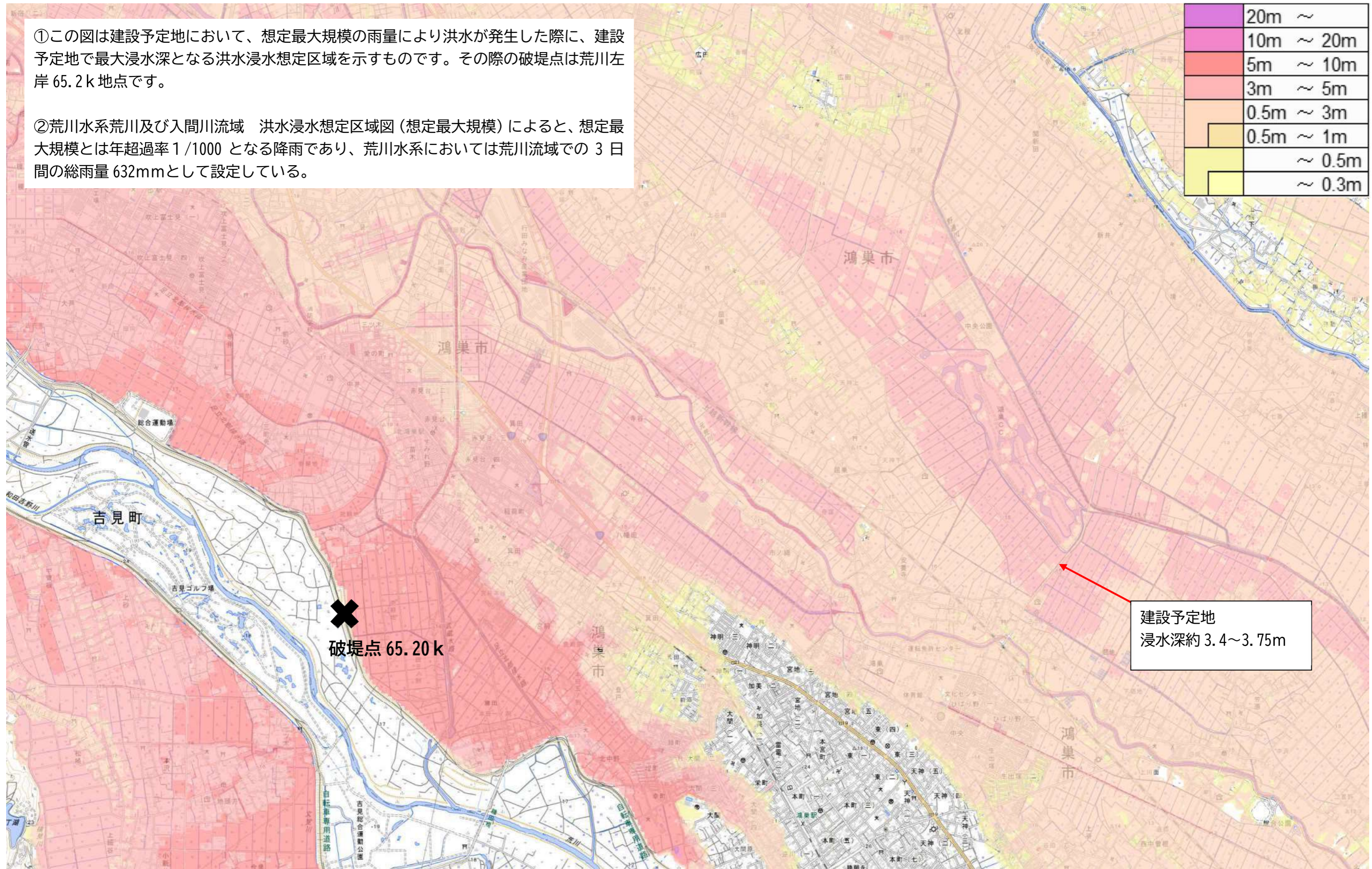
建設予定地周辺の洪水浸水想定区域（想定最大規模）

【別紙4-1】

①この図は建設予定地において、想定最大規模の雨量により洪水が発生した際に、建設予定地で最大浸水深となる洪水浸水想定区域を示すものです。その際の破堤点は荒川左岸 65.2k 地点です。

②荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）によると、想定最大規模とは年超過率 1/1000 となる降雨であり、荒川水系においては荒川流域での 3 日間の総雨量 632mm として設定している。

20m ~
10m ~ 20m
5m ~ 10m
3m ~ 5m
0.5m ~ 3m
0.5m ~ 1m
~ 0.5m
~ 0.3m



✕
破堤点 65.20k

建設予定地
浸水深約 3.4~3.75m

追記：この図は国土交通省が実施したシミュレーションであり、想定最大規模の雨量により、荒川、利根川、野通川、元荒川等の多数の河川の多数の地点で破堤した場合のシミュレーションを重ね合わせて、最大の浸水深を示したものです。建設予定地では荒川左岸 65.2k 地点が破堤した場合に最大浸水深となります。荒川左岸 65.2k 地点が破堤しやすいということではありません。

出典：国土交通省 地点浸水シミュレーション検索システム

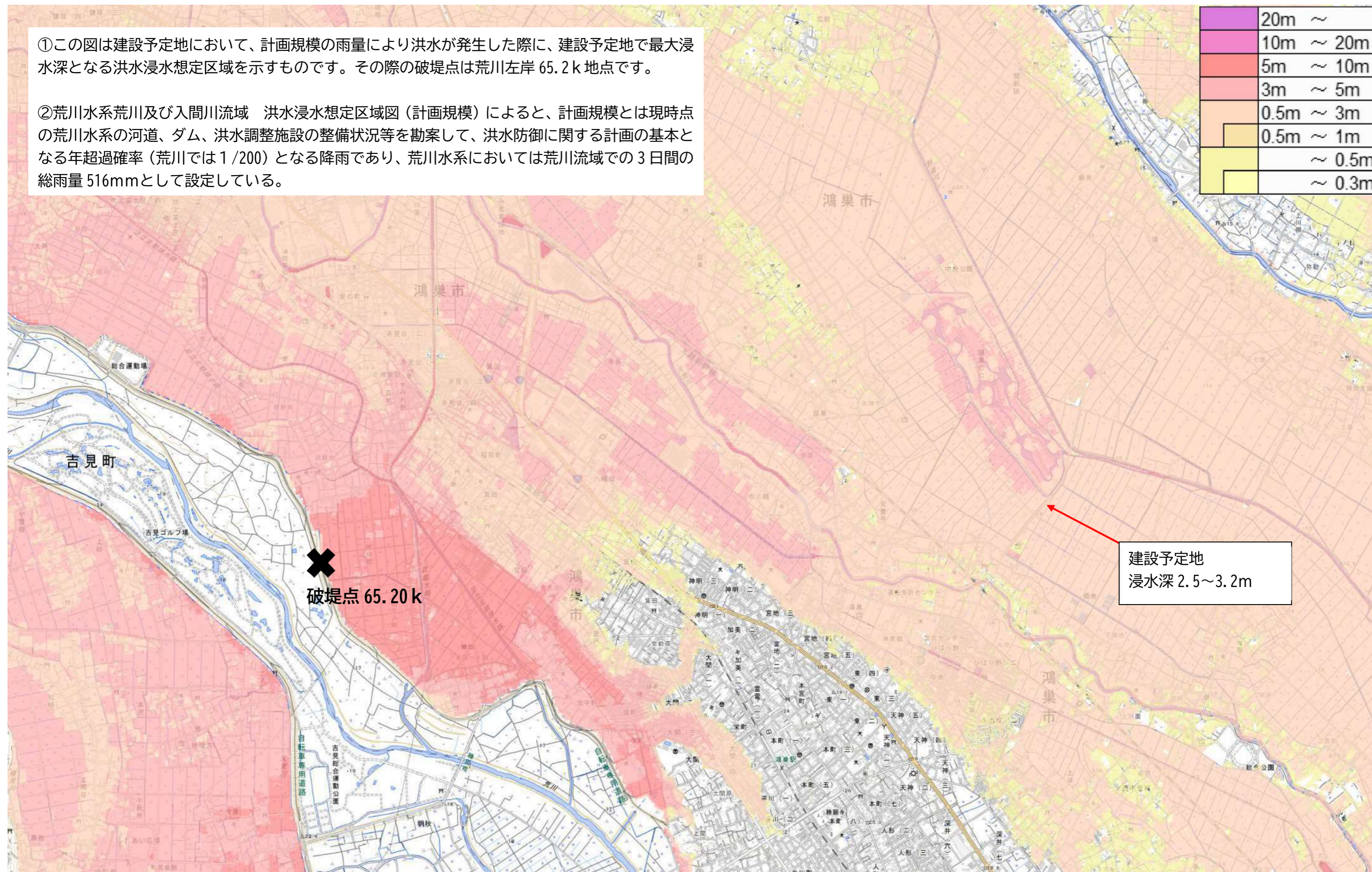
建設予定地周辺の洪水浸水想定区域（計画規模）

【別紙4-2】

①この図は建設予定地において、計画規模の雨量により洪水が発生した際に、建設予定地で最大浸水深となる洪水浸水想定区域を示すものです。その際の破堤点は荒川左岸 65.2k 地点です。

②荒川水系荒川及び入間川流域 洪水浸水想定区域図（計画規模）によると、計画規模とは現時点の荒川水系の河道、ダム、洪水調整施設の整備状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率（荒川では1/200）となる降雨であり、荒川水系においては荒川流域での3日間の総雨量516mmとして設定している。

20m ~
10m ~ 20m
5m ~ 10m
3m ~ 5m
0.5m ~ 3m
0.5m ~ 1m
~ 0.5m
~ 0.3m



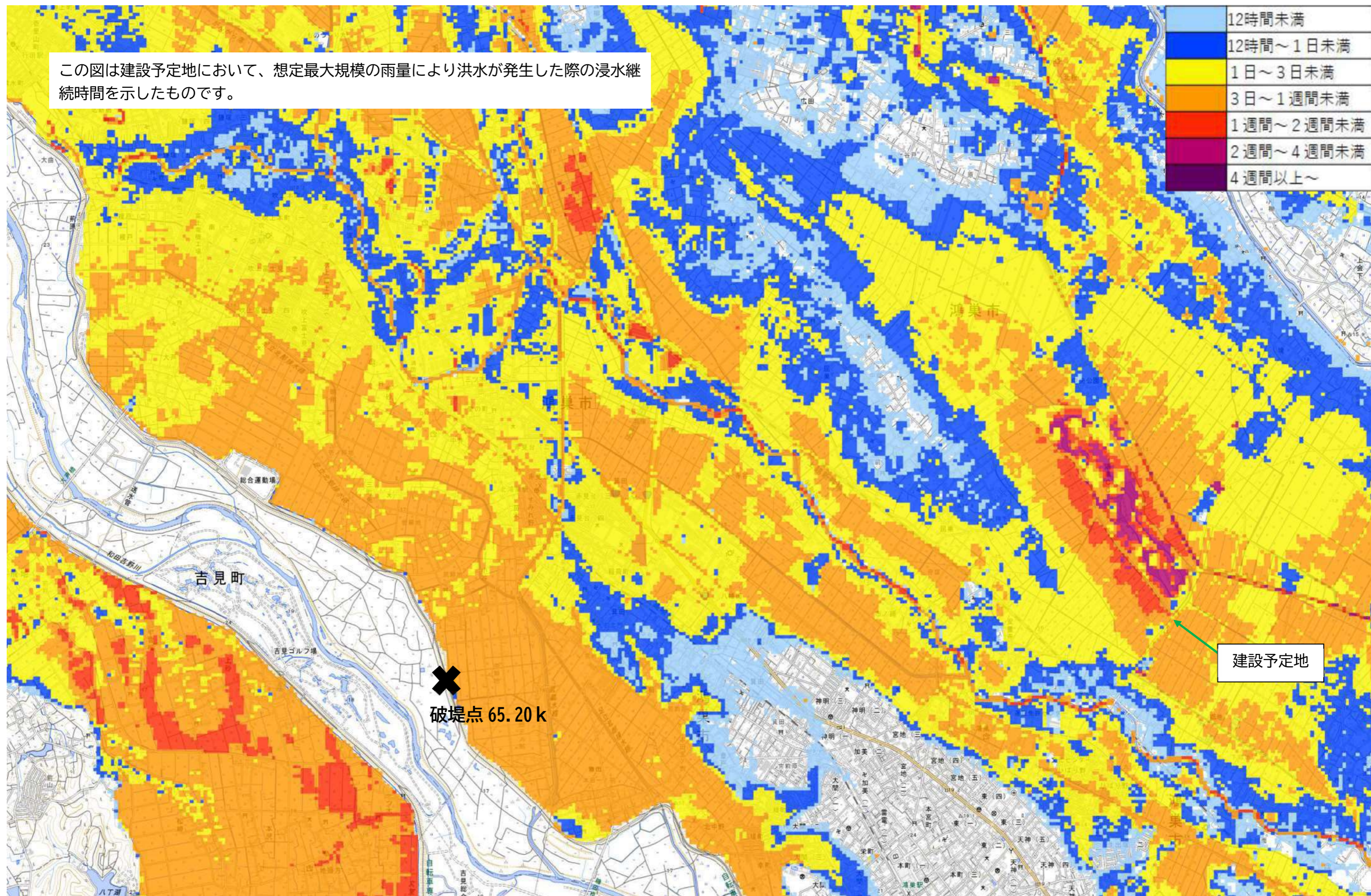
追記：この図は国土交通省が実施したシミュレーションであり、計画規模の雨量により、荒川、利根川、野通川、元荒川等の多数の河川の多数の地点で破堤した場合のシミュレーションを重ね合わせて、最大の浸水深を示したものです。建設予定地では荒川左岸 65.2k 地点が破堤した場合に最大浸水深となります。荒川左岸 65.2k 地点が破堤しやすいということではありません。

出典：国土交通省 地点浸水シミュレーション検索システム

建設予定地周辺の浸水継続時間（想定最大規模）

この図は建設予定地において、想定最大規模の雨量により洪水が発生した際の浸水継続時間を示したものです。

12時間未満
12時間～1日未満
1日～3日未満
3日～1週間未満
1週間～2週間未満
2週間～4週間未満
4週間以上～



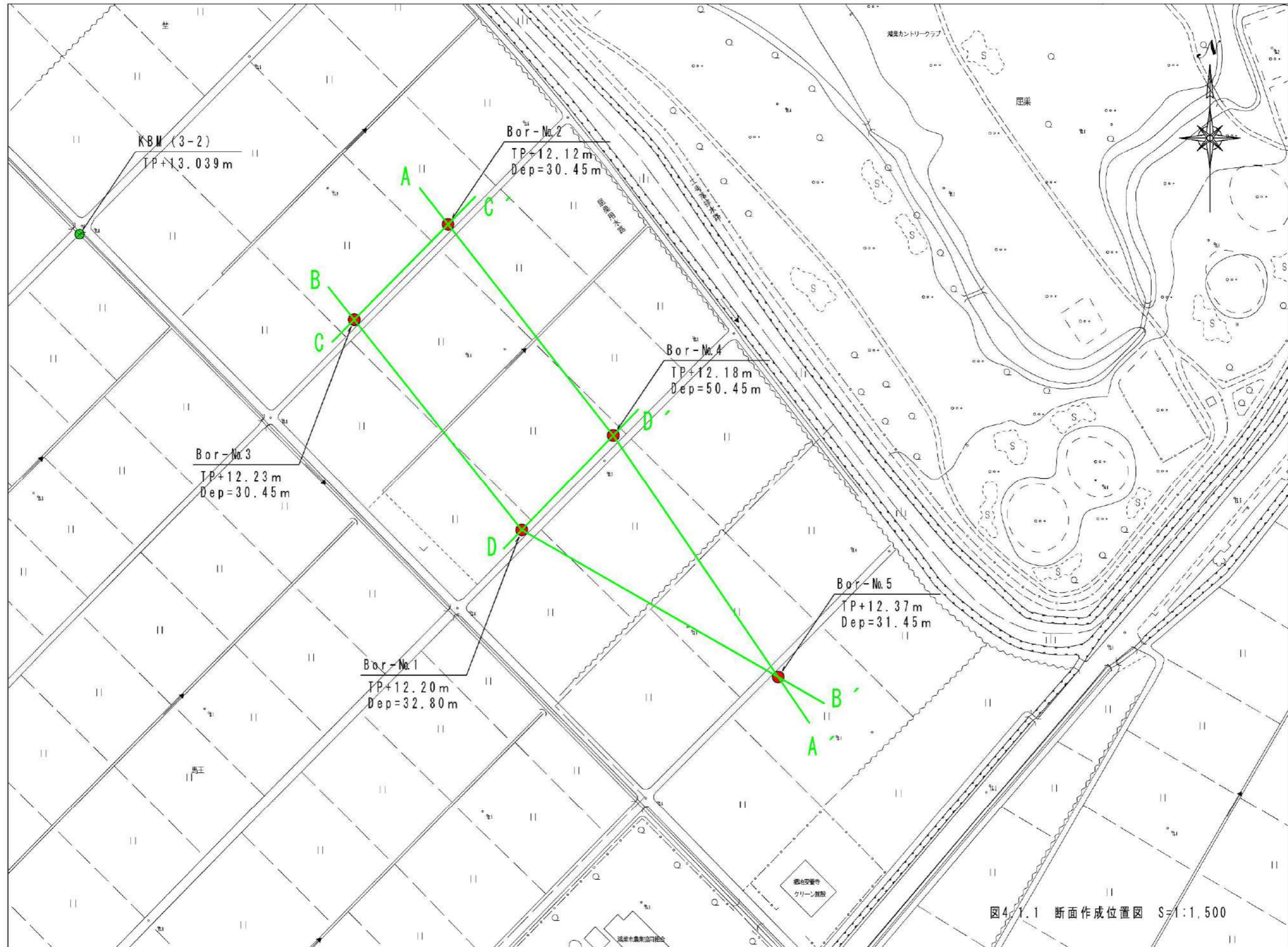
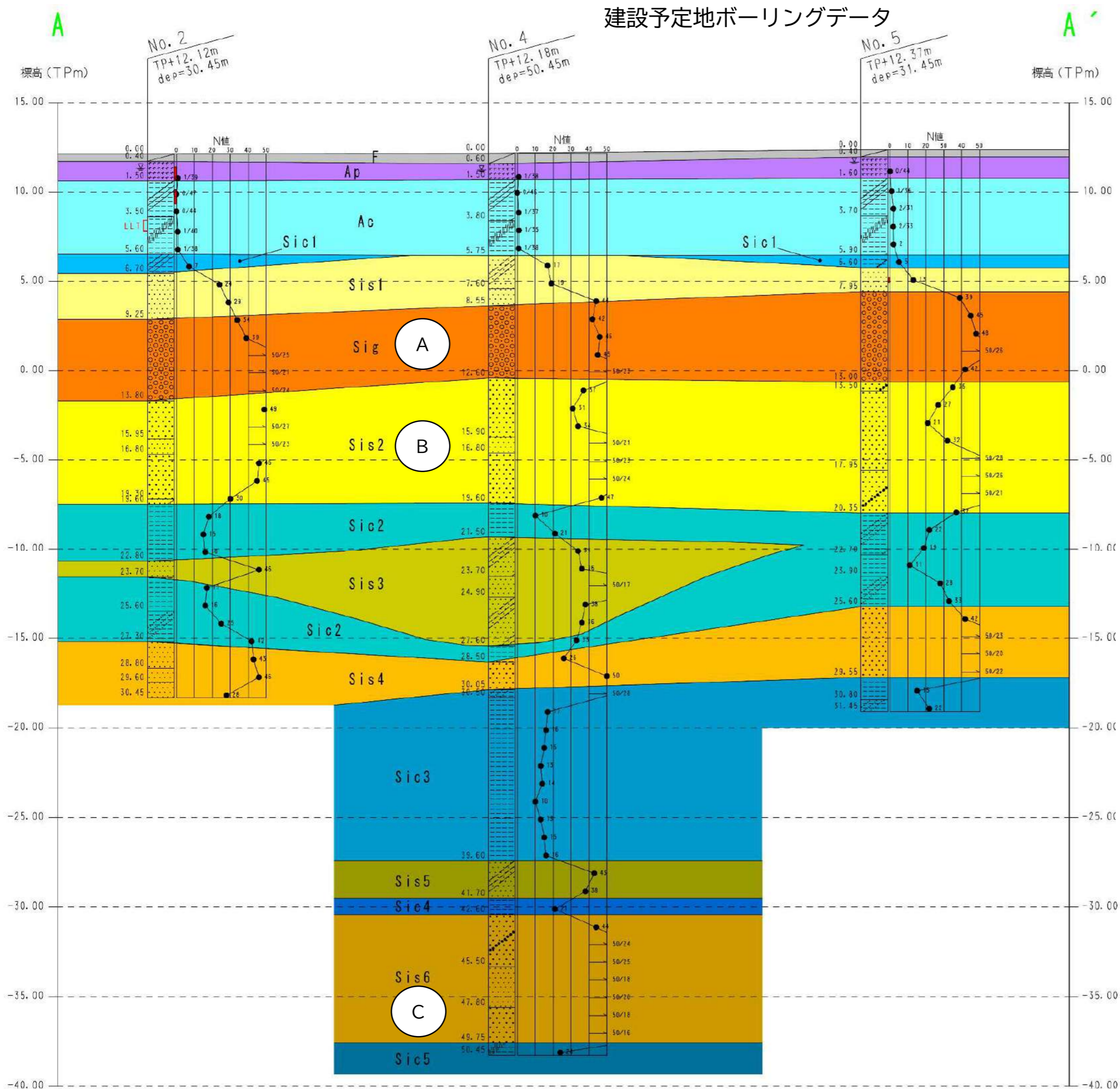


図4.1.1 断面作成位置図 S=1:1,500

建設予定地ボーリングデータ

【別紙5-2】



地質層序表

時代	地層名	記号	主な土質	N値分布
現世	表土層	F	表土	-
第四紀完新世	腐植土層	Ap	腐植土	0/50~1/38
	粘性土層	Ac	粘土質シルト 有機質シルト	0/50~2
	第1粘性土層	Sic1	シルト 粘土質シルト	5~10
第四紀更新世 下総層群(洪積層)	第1砂質土層	Sis1	細砂 シルト質細砂	8~44
	礫質土層	Sig	砂 礫	34~50以上
	第2砂質土層	Sis2	中砂・細砂 礫混じり中砂	17~50以上
	第2粘性土層	Sic2	硬質シルト 砂質シルト	10~33
	第3砂質土層	Sis3	細砂 シルト質細砂	33~50以上
	第4砂質土層	Sis4	細砂・中砂 礫混じり中砂	25~50以上
	第3粘性土層	Sic3	硬質シルト 砂質シルト	10~50以上
	第5砂質土層	Sis5	シルト質細砂	38~43
	第4粘性土層	Sic4	硬質シルト	21
	第6砂質土層	Sis6	礫混じり中砂 細砂・中砂	44~50以上
	第5粘性土層	Sic5	有機質シルト	24